



附属小学校だより

平成25年7月発行

研究成果の発信

本校では、平成20年度より「よりよく思考する子どもが育つ授業の創造」をテーマとし、実践研究に取り組んできました。そして、この6月に東洋館出版社より、5年間の研究成果をまとめた著書『子どもが思考を組み替えるとき』（A5版 190頁）を発行しました。

次は、本書の前書きの一部です。

周知のように、平成20年の学習指導要領の改訂に際して、子どもたちの学力低下が問題となり、学力形成が喫緊の課題とされました。「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（平成20年1月17日）では、「各種調査の結果からは、（筆者省略）思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に課題がある。」と指摘されました。背景には、OECD（経済協力開発機構）が2000年から開始しているPISA調査結果で、我が国の子どもたちが、読解力や記述式の問題の無答率が高いことが挙げられます。今や、思考力育成のための授業改善が待ったなしの状況なのです。～略～



さて、平成18年に改正された教育基本法の「教育の目標」には、「主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」が新たに設定されました。その後改正された学校教育法でも、同様に、達成すべき目標として「主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」が設定されています。これは、将来のわが国を担う子どもたちが、既に存在する社会の有り様を批判的に吟味し、今後あるべき社会に必要なとされるルールを創造したり、変更したりできる知識、能力、態度を身につけることを求めるものです。したがって、子どもたちは、将来「主体的に社会の形成に参画」できる一員となるべく、基礎的・基本的な知識・技能の習得にとどまることなく、自ら思考する能力を身につけなければならないといえるでしょう。このような課題が明らかな今、本書でお示しする研究成果が、新しい教育の創造にほんの少しでも貢献できることを願っております。～略～

また、6月14日には、本年度の教育研究発表会を開催し、全教科及び外国語活動の授業や教科別研修会を行い、研究成果の一端を公開しました。当日は、県内外の先生方、教育関係機関の先生方、そして、教員を目指す大学生など、およそ450名の参加者があり、充実した一日となりました。

これからも、本校の使命の一つである「教育研究を推進し、その交流・発信に努める」ことを果たしたいと思います。

授業後の協議会では活発な意見交換が行われました。➡



念願の空調設備が整います！

今年の夏休み中に全普通教室にエアコンが設置されることになりました。

今後は、エアコンが設置されたからといって、依存しすぎることもないよう、子どもたちの健康管理の観点からも適切に使用したいと思います。



